

今回は津山城築城の時代背景について検討してみました。今回は津山城のシンボルについて少し考えてみます。

3月に備中櫓が完成し、市街地のさまざまな場所から見る事ができるようになりました。まさに津山の新たなシンボルとしての役割を果たしているように思います。

ところで、江戸時代における津山城のシンボルとは何だったのでしょうか？やはり城内最大の建造物である天守だったのでしょうか？現在津山城跡全体を上空から見ると、備中櫓は本丸から大きく南側へ張り出して建てられていることがよくわかります（写真）。



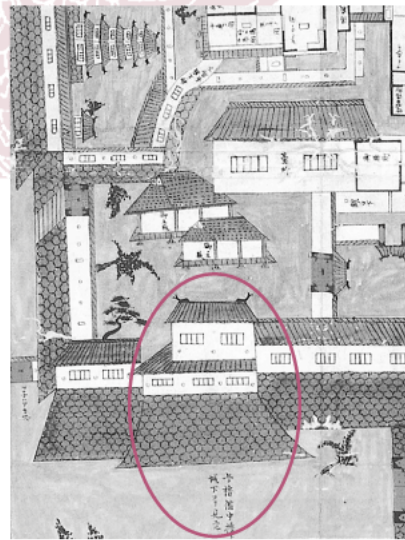
▲写真 南西上空から見た津山城跡

現在の市街地は津山城跡を中心に放射状に広がっています。江戸時代の城下町は東西に幅広く延びていました。また、津山城の大手口は、津山城の南側を東西に通っている出雲街道に面した京橋門であり、この一帯が当時最も人通りの多い場所だったと思われる。つまりここからの景観が津山城の典型的な景観であったと考えられます。

# 津山城百聞録

## ～津山城のシンボル～

森家時代の津山城のようすを描いた数少ない絵図に『森家先代実録』の付図があります(図)。この絵図は元禄に近いころの城を描いたものと考えられています。その中の一枚「作州津山城本丸之図」には、おおよそ現在の鶴山公園の範囲で、さまざまな櫓や門・御殿などが描かれています。



▲図『森家先代実録』付図に描かれた備中櫓(「津山城資料編」より)

その中でもとくに備中櫓には「上ノ櫓備中櫓ト云 城下ヨリ見ユル」という記載があります。そのほかの櫓にはこのような記載は見られません。そして天守よりも備中櫓の方が大きく立派に描かれています。少なくともこの絵図では城下から見て最も目立つのは備中櫓であると認識されていたようです。

『森家先代実録』の成立は文化6年(1809)とされていますので、森家が津山を去ってから約100年を経過していますが、よほど備中櫓が印象に残っていたものと思われる。

現在、建造物として唯一復元され、新たな津山のシンボルとなりつつある備中櫓は、実は江戸時代から津山城の城下からの景観を代表する建造物であったのです。

### 2月中のひとの動き

人口	111,582人
男	53,242人
女	58,340人
世帯	42,588世帯
転入	198人
転出	218人
出生	81人
死亡	63人

※合併で新市民になった旧町村人口 21,353人 (3月1日現在)



広報つやまは、環境保護のため古紙配合率100%再生紙、大豆油インキを使用しています。読み終えた後はリサイクルにご協力ください

### つぶやき 編集室

お城山が桜色に染まる姿は本当に圧巻。とくに四方上下からの「桜攻め」はいつ見ても鮮烈な印象を残します。今年も、桜の植樹に尽力した福井純一氏が活動を始めて100年。築城400年とともに祝いたいですね。(X)

広報担当をバトンタッチすることになりました。多くのお会いと感動があり、あっという間の3年間でした。協力いただいたみなさん、ありがとうございました。これからは、少しでも早起きしてがんばります。(都)

(都)さん3年間お疲れさまでした。今年は取材抜きでゆっくりお花見を堪能してください。でも、その周りでカメラを持ってうろうろ(オロオロ?)している私たちを見たら、心配でそれどころではないかも…。(e)

つやま 広報 4月

平成17年 2005 606号

編集・発行 津山市企画部行政広報室(市役所3階) 〒708-8501 岡山県津山市山北520 ☎0868-32-2029 ☎0868-32-2152 Eメール kouhou@city.tsuyama.okayama.jp ☆広報つやまはホームページで閲覧できます http://www.city.tsuyama.okayama.jp/ 発行日 毎月10日 印刷 株式会社 津山朝日新聞社印刷部